

台風11号における長安ロダムの操作について

◇平成26年台風11号に伴う降雨によって、那賀川における戦後最大流量（古庄水位観測所流量9,000m³/s、s25.9）を上回る洪水となり、長安ロダムでも、昭和31年の完成以降最大となる毎秒約5,758 m³の最大流入量を記録しました。

（これまでの長安ロダムの最大流入量は、昭和50年8月の毎秒約5,050 m³）

◇このような中、長安ロダムは8月10日（日）の4時20分に、異常洪水時防災操作開始水位を超えたため、異常洪水時防災操作（ただし書き操作）に移行しましたが、ダムへの最大流入時には、毎秒約5,758m³のうち毎秒約374m³をダムに貯留し、毎秒約5,384m³に減じて流下させました。

◇長安ロダムでは、今回の洪水に対し、「長安ロダム操作規則」に基づき、ダム操作を実施しました。

（異常洪水時防災操作に至る経緯）

① 長安ロダムでは、1週間前にも台風12号による降雨により毎秒約1,108 m³（最大）の水が流入しており、ゲート放流を継続している状況でした。その後、台風11号の接近も予想されていたことから、ダムの貯水位は、降雨による水をダムに貯めるための容量（洪水調節容量）を確保した状態を維持していました。

② 8月9日17時の水位は、台風の大きさや進路から、ダムに流入する水を、より大きく貯留できるよう通常確保する水位（予備放流水位）から、さらに1.7m低下させていました。

※8月9日17時の水位：

$$\text{標高 } 219.7 \text{ m (予備放流水位)} - 1.7 \text{ m} = 218.0 \text{ m}$$

- ③ 台風11号は、9日から10日にかけて四国に接近、上陸し、その進路は、気象庁予測の東側を進み、長安口ダム流域を直撃するコースとなりました。台風による雨雲は、長安口ダム流域に長時間留まり、時間雨量40 mmから50 mmを越える雨が7時間継続する事態となりました。（長安口ダム流域の総雨量は台風11号で約805 mm、台風12号を合わせると総雨量は約1,484 mmとなりました。）
- ④ 放流警報は、8月8日15時から放流量再増加の警報、8月9日22時26分から毎秒2,000 m³放流に伴う警報を実施しました。
なお、警報は、長安口ダムより下流にある25カ所の警報局からサイレンとスピーカーによる音声で周知しました。また、8月8日の放流量再増加時には、ダムより警報車を下流に向け走行させ、巡視確認すると共に、車載のスピーカー音声にて周知し、8月9日の毎秒2,000 m³放流時には、関係機関（徳島県、阿南市、那賀町、阿南及び那賀警察署、NHK、四国放送、FM徳島等）にFAXでお知らせしました。
- ⑤ 長安口ダムでは、ダムに流入してくる水の量が毎秒2,500 m³を越えたことから、10日0時17分より、ダムに水を貯める操作（防災操作）を開始しました。（「ダムに流入する水量」に対し、「ダムから放流する水量」を減らす操作を実施）
- ⑥ その後、8月10日3時40分から異常洪水時防災操作に伴う警報を実施しました。
なお、警報は、長安口ダムより下流にある25カ所の警報局からサイレンとスピーカーによる音声で周知しました。また、ダムより警報車を下流に向け走行させ、巡視確認すると共に、車載のスピーカー音声にて周知し、関係機関（徳島県、阿南市、那賀町、阿南及び那賀警察署、NHK、四国放送、FM徳島等）にはFAXでお知らせしました。
さらに、事務所長より阿南市長、那賀町長に電話連絡を入れ、操作状況の説明や今後の予測、避難勧告等に関する参考意見をお知らせすると共に、両市町に派遣した事務所職員から、リアルタイムにダムの放流状況等について説明しました。
- ⑦ 長安口ダムは8月10日（日）の4時20分に、異常洪水時防災操作開始水位を超えたため、異常洪水時防災操作（「ダムから放流する水量」を「ダムに流入する水量」に近づける操作）に移行しました。

●長安ロダム 雨量等グラフ [速報値]

